



イノベーション立国日本プログラム 第二回会議レポート

日本に革新をもたらすため 構造的な問題を探る

📅 2023.7.26(Wed) 15:30-18:00 📍 AKKODiS innovation Lab.



桜谷 慎一
プログラムディレクター

7月26日（水）、AKKODiS innovation Lab.にて「イノベーション立国日本プログラム」の第二回会議が実施されました。前回に引き続き、日本が抱える重要課題3点について、議論を行いました。新たなメンバーも加わった今回は、5チームに再編成を行い、参加者の皆さんは課題解決に向け、白熱したディスカッションを交わしました。

各チームの取り組むテーマ



少子高齢化



ビジョンをつくる
コミュニケーション



首都圏集中と
地方の弱体化

イノベーションは常識になる

前回同様に、本プロジェクトのプログラムディレクターを務める桜谷慎一の進行で進みました。桜谷は会議冒頭にイノベーションが起きる事例について紹介。優れたデザインの家具を手ごろな価格で提供することをビジョンに掲げている「IKEA」は、保管コストを最大限に下げる仕組みを考えた結果「自分で組み立てる家具」を編み出したことや、発熱時に氷枕や氷のうが主流だった時代に、凍らせることで繰り返し使用できる画期的な商品「アイスノン」が開発されたストーリーなどを引き合いに出し、その時々々のイノベーションは後世に受け継がれ、今では世の中の常識として定着していることを解説しました。



問題をつなげて変数化する

第一回はシステム思考が重要であるとし、模造紙に因果関係を示した付箋を貼り付けたところで終了しましたが、今回は、問題の変数化※に取り組んでいきました。桜谷は要素間の相互のつながりを理解する能力がシステム思考のポイントであると指摘したうえで、参加者は表面化している課題と根本原因をつなげた因果の全体像を可視化していきました。これにより、構造の力を利用した解決の糸口を見出すことができます。

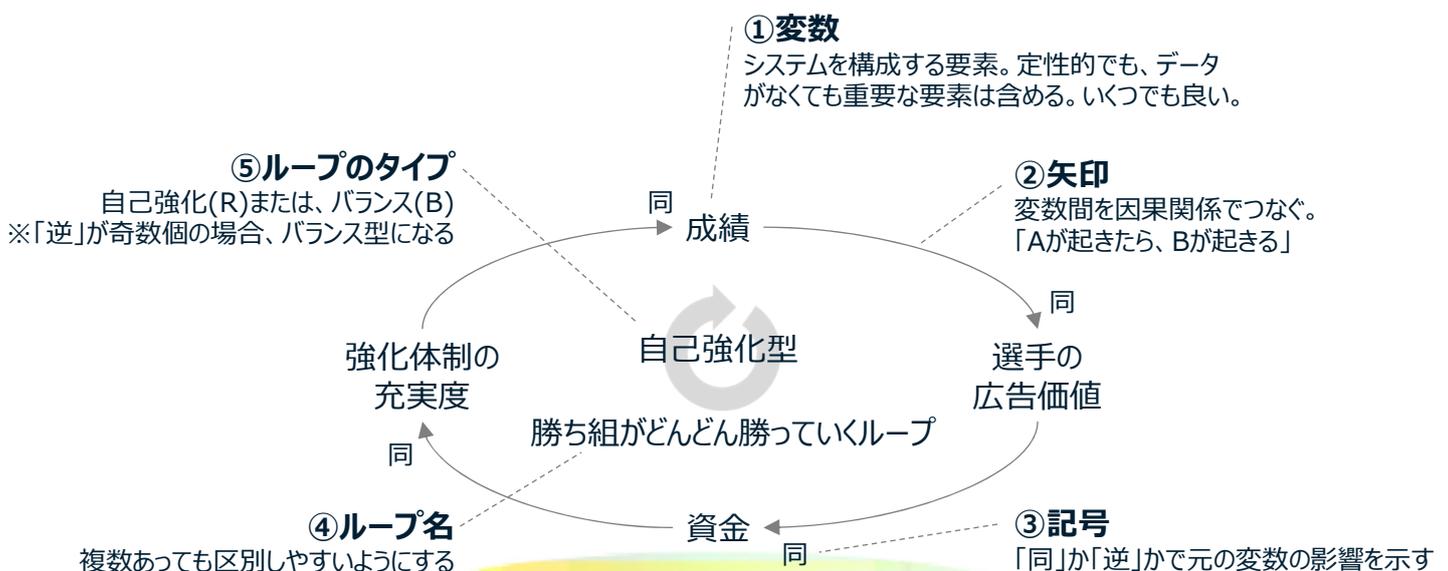


このパートでは、関係性の流れや時系列で課題への探究を深めていくなかで、変数となる「言葉」の表現（＝抽象度）や因果関係が正しく成り立っているのかに苦慮する参加者も多く、グループを超えて互いのループ図を確認をしたり、アドバイスを交わしながらワークに熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。

※何をコントロールできるかを探す行為。下記が具体例となる。

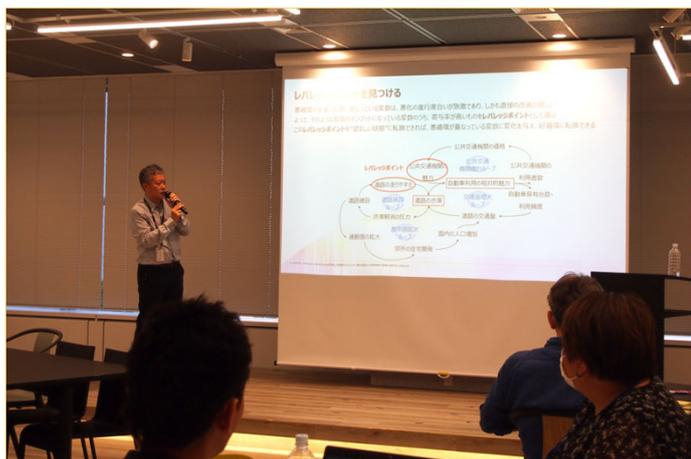
ループ図の基本構成

以下の5つの基本的なポイントを押さえて作成する



レバレッジポイントを見つける

その後、各グループはさらに個人や家庭など段階的に視点を変えながら問題点同士がつながるかどうかメカニズムの発見を行いました。これによって日本が抱えている問題を構造化してきた結果、悪循環が重なっているループ図が抽出されてきました。

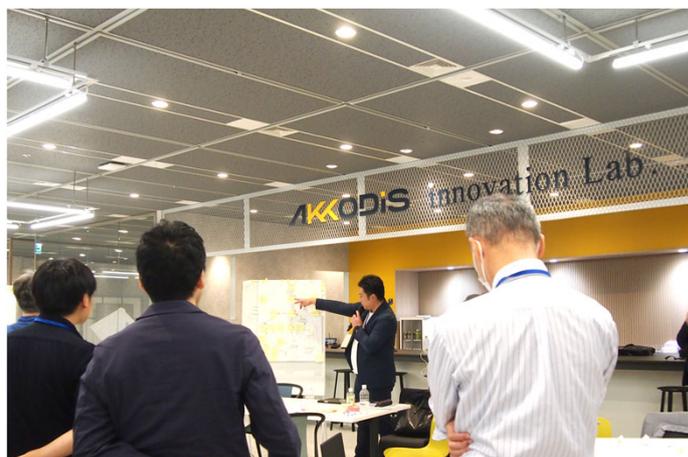


この悪循環を改善するためにはレバレッジポイント※を探ることが重要になります。複数のループ図を重ね合わせることで、要素が重なっている部分が現れ、その起点となっている部分の一つ手前の要素がレバレッジポイントになります。レバレッジポイントを絞り込むことで、その課題に対する有効な施策をいち早く見つけることができるため、今回ワークの重要なポイントになります。

※より少ないリソースでより大きく持続的な成果をもたらす介入場所

課題の構造を分析し、根幹に踏み込む

さらに議論を深め、それぞれのチームでレバレッジポイントを決める作業を行いました。少子高齢化をテーマにした2つのチームは「婚姻数」、「介護・健康」、首都圏集中と地方の弱体化をテーマにした2つのチームは「働き口」、「外需産業を増やす」、ビジョンをつくるコミュニケーションをテーマにしたチームは「事業への投資」をレバレッジポイントに据えるなど、各チームの課題によって多様なレバレッジポイントが抽出されました。



第二回のグループワークでは第一回の内容が上積みされ、さらに日本が抱える問題点の構造的部分を分析し課題の根幹に踏み込んだ回になりました。今回、はじめて参加したという方からは、「さまざまな業界の方と日本の課題について深掘りするというワーク自体初めての経験だったが、多様な視点で議論ができてとても刺激的だった。次回からは、未来に向けたワークになるということで楽しみたい」と、次回のワークに向けた期待感を高めていました。第三回以降も「課題解決先進国」へと導くため、今後も活発な議論を続けてまいります。

この国の「失われた30年」を取り戻す。

イノベーション立国日本プログラム

